

2016年7月28日  
株式会社日本政策金融公庫  
中小企業事業本部  
保険企画部

## 第189回 信用保証利用企業動向調査結果の概要

(2016年4～6月期実績、7～9月期見通し)

〔概況〕 信用保証利用企業の資金繰りは、やや改善している

～景況は一部に弱い動きが見られるものの、持ち直しの動き。先行きについては、慎重な見方～

- 【金融関連】 ○ 資金繰りD. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲12. 0となった。  
○ 借入難易感D. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲1. 5となった。  
○ 今期(16年4～6月)に借入を実施した企業の割合は、やや増加した。
- 【保証利用】 ○ 今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、横ばい。  
○ 来期(16年7～9月)における保証利用要請D. I. は、やや低下し▲0. 9となり、3期連続で過去最低を更新した。  
※ 保証利用要請D. I. …金融機関による保証利用要請が「強くなると思う」企業の割合－「弱くなると思う」企業の割合。
- 【生産等】 ○ 生産・売上げD. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲10. 4となった。先行きについては、マイナスとなり慎重な見方となっている。  
○ 採算D. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲12. 2となった。
- 【特別調査】 「事業承継への意識等について」  
○ 事業承継時期については、経営者の年齢層が高くなるにつれて「今後10年以内」に事業承継をする企業が増加する傾向にあり、60歳以上では50%超となっている。一方で、60歳以上であっても「明確な時期は決めていない」との回答が20%超となっており、「まだ事業承継について考えていない」と合わせると30%超を占めている。  
○ 事業承継における課題として、経営の承継問題では「事業承継者を教育すること」(42.0%)及び「取引先との関係を維持すること」(37.6%)、後継者の選定問題では「事業承継者の候補を確保すること」(27.6%)、資産・負債の承継問題では「借入に対する現経営者の担保等を解除すること」(21.5%)の比率が高くなっている。

<調査の要領> 調査時点 2016年6月中旬  
調査対象 9地域(北海道、宮城、東京、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡)の信用保証協会利用先  
16,000企業を対象としており、**回答企業の約77%が従業員20人以下の小規模企業**となっています。  
有効回答企業数 4,800企業  
回答率 30.0%

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 中小企業事業本部 保険企画部 Tel:03-3270-2384(担当:前田、宮本、野口)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

本資料は日本銀行内金融記者クラブ、経済産業記者会に同時配布しております。



## (1) 資金繰り

・資金繰りD. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲12.0となった。

		2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6	7-9
資金繰りD.I.	実績	▲11.4	▲10.0	▲10.4	▲13.3	▲12.0	
	見通し	▲10.1	▲8.5	▲9.9	▲6.4	▲9.3	▲10.1

(注) 前期比。資金繰りD.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。

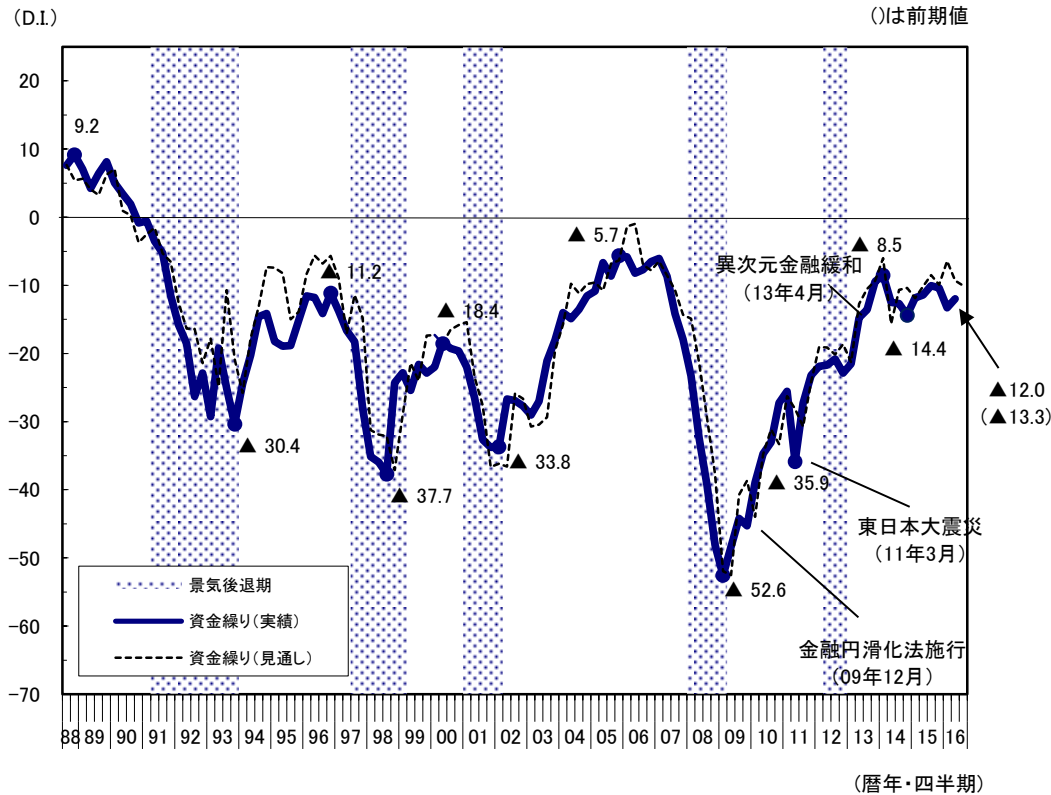
## (2) 借入難易感

・借入難易感D. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲1.5となった。

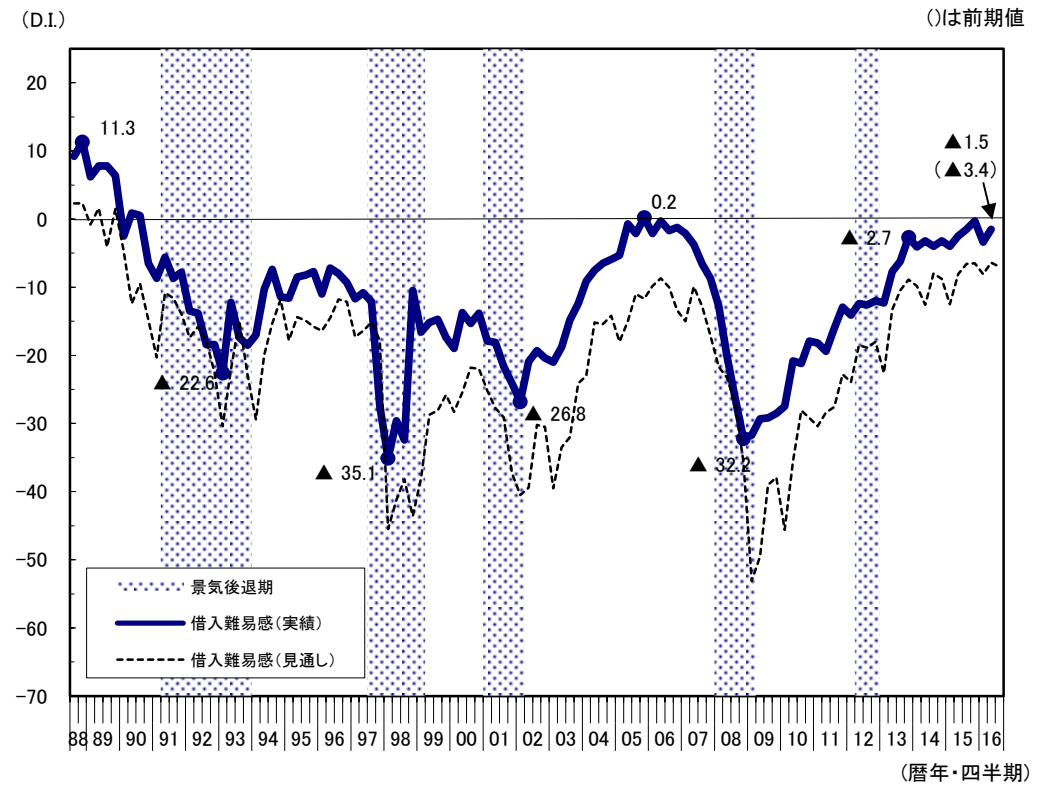
		2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6	7-9
借入難易感D.I.	実績	▲2.5	▲1.5	▲0.3	▲3.4	▲1.5	
	見通し	▲8.1	▲6.6	▲6.5	▲8.1	▲6.4	▲7.0

(注) 前期比。借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

### 資金繰りD. I. (季節調整値)の推移



### 借入難易感D. I. の推移



### (3) 借入れ状況

・今期(16年4~6月)に借入を実施した企業の割合は、やや増加した。

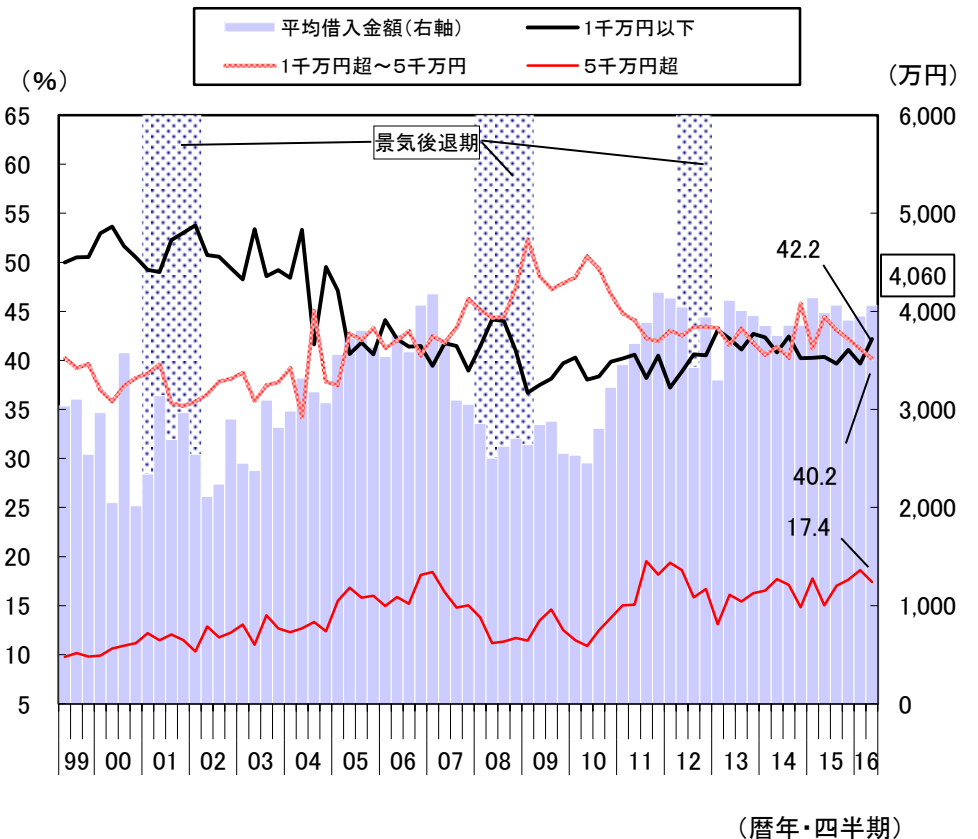
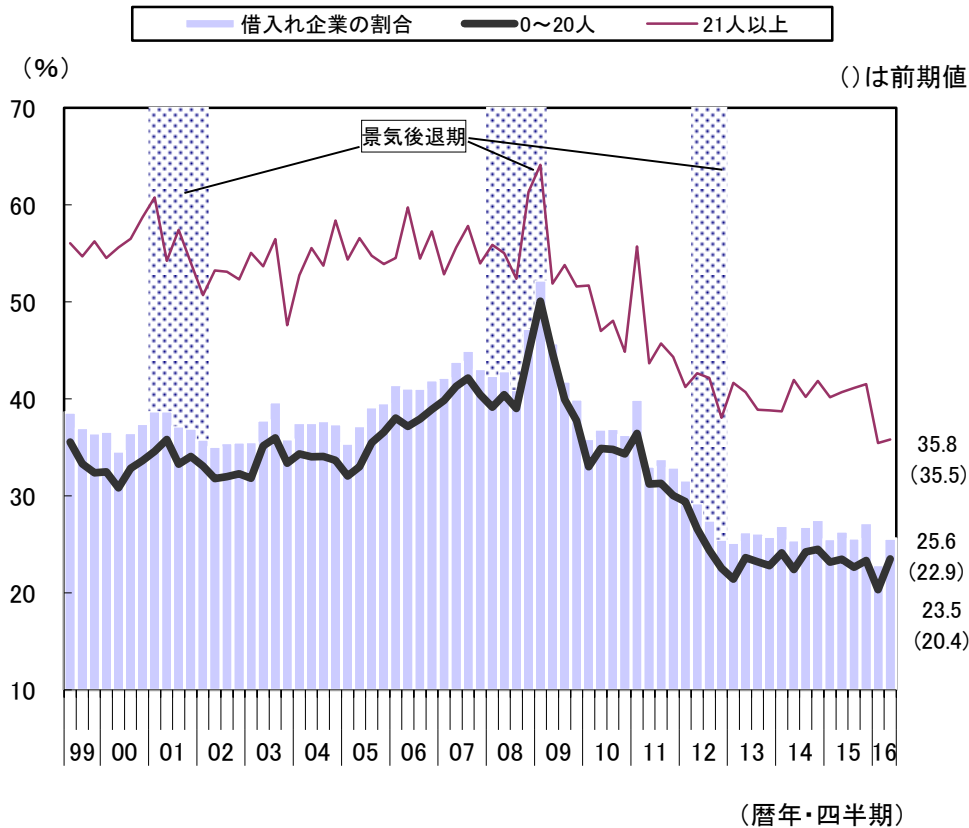
・一社あたりの借入金額別構成比は、「1千万円以下」がやや増加、「5千万円超」がやや減少した。

① 借入を実施した企業の割合(季節調整値)

	2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6
借入れ企業の割合	26.4	25.7	27.2	22.9	25.6
0-20人	23.5	22.7	23.4	20.4	23.5
21人以上	40.7	41.1	41.5	35.5	35.8

② 一社あたりの借入金額別構成比(季節調整値)

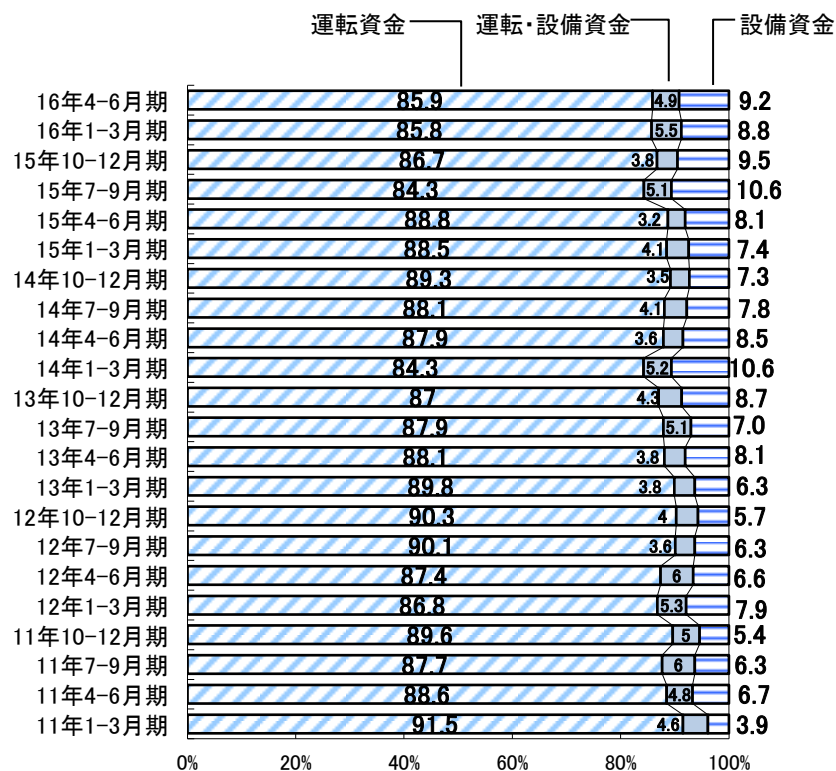
	2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6
1千万円以下	40.4	39.7	41.1	39.7	42.2
1千万円超~5千万円	44.4	43.1	42.2	41.2	40.2
5千万円超	15.0	17.0	17.6	18.6	17.4



(注)「借入」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計したものである。

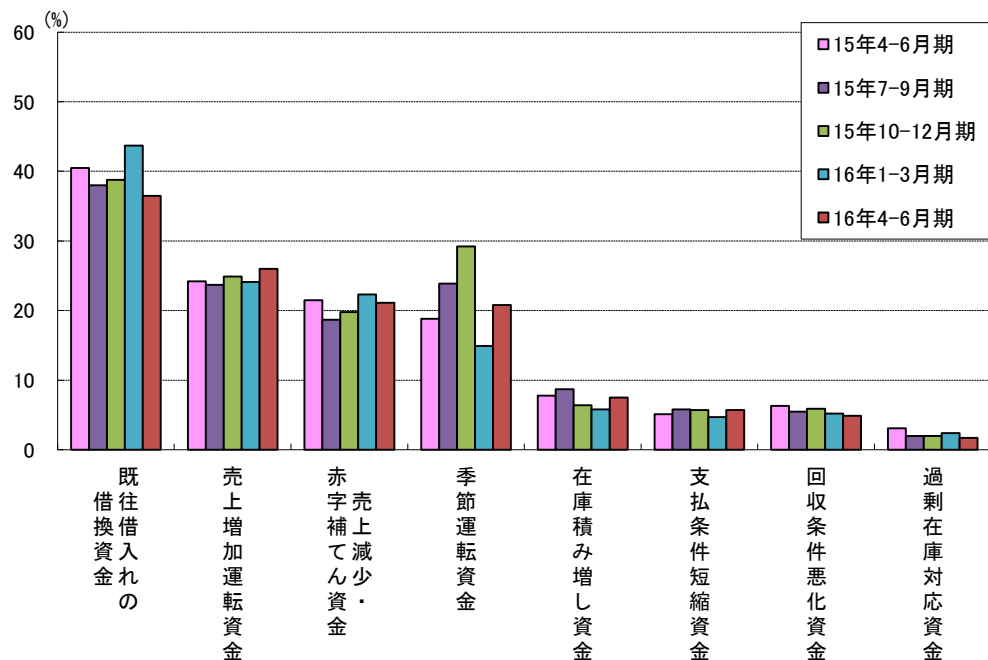
・資金使途については、運転資金及び設備資金ともに横ばい。設備資金については、9.2%と引き続き高水準で推移している。

### ③-1 資金使途の構成



### ③-2 運転資金の内訳

(原数値)	既往借入れの借換資金	売上増加運転資金	売上減少・赤字補てん資金	季節運転資金	在庫積み増し資金	支払条件短縮資金	回収条件悪化資金	過剰在庫対応資金
16年 4-6月期	36.5	26.0	21.1	20.8	7.5	5.7	4.9	1.7
16年 1-3月期	43.7	24.1	22.3	14.9	5.8	4.7	5.2	2.4
15年 10-12月期	38.8	24.9	19.8	29.2	6.4	5.7	5.9	2.0
15年 7-9月期	38.0	23.7	18.7	23.9	8.7	5.8	5.5	2.0
15年 4-6月期	40.5	24.2	21.5	18.8	7.8	5.1	6.3	3.1



(注) 1.複数回答のため、合計は100を超える。

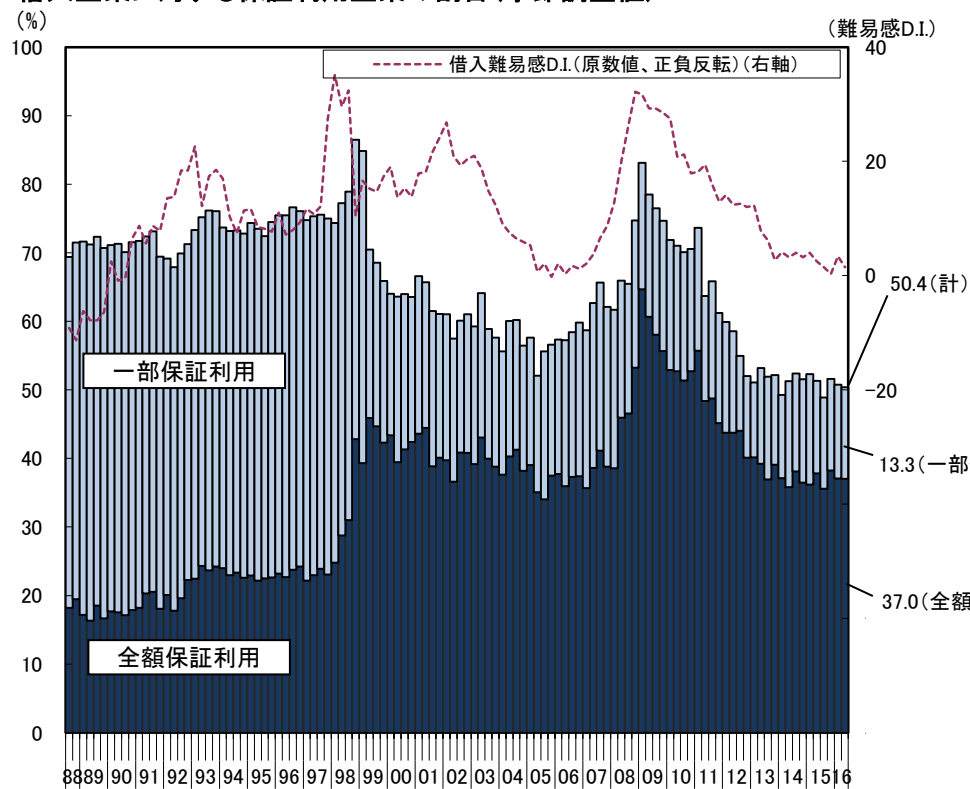
2.「資金使途」は、信用保証を利用した借入と信用保証を利用していない借入を合計した借入金に係るものである。

## (4) - 1 保証利用状況

・今期に借入を実施した企業のうち、保証を利用した企業の割合は、横ばい。

	2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6
保証利用企業の割合	51.3	48.9	51.6	50.8	50.4
全額利用	37.8	35.6	38.2	37.1	37.0
一部利用	13.5	13.3	13.4	13.7	13.3
プロパーのみ利用企業の割合	48.7	51.1	48.4	49.2	49.6

借入企業に対する保証利用企業の割合(季節調整値)



(暦年・四半期)

## (4) - 2 金融機関からの保証利用要請

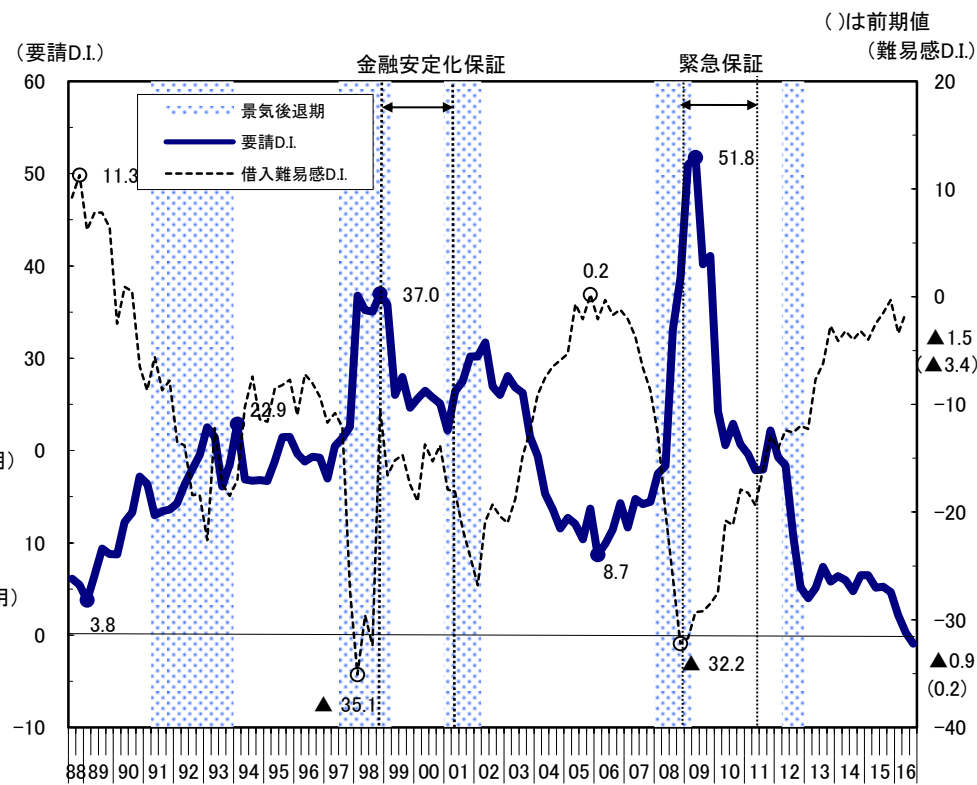
・来期(16年7~9月期)における保証利用要請D. I. は、やや低下し▲0.9となり、3期連続で過去最低を更新した。

	2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6	7-9
要請D.I. 見通し	5.1	5.2	4.7	2.2	0.2	▲0.9
借入難易感D.I. 実績	▲2.5	▲1.5	▲0.3	▲3.4	▲1.5	

(注) 1.前期比。要請D.I.は、「強くなると思う」企業の割合-「弱くなると思う」企業の割合。季節調整値。

2.借入難易感D.I.は、「容易」企業の割合-「困難」企業の割合。原数値。

金融機関からの要請D. I. (季節調整値)及び借入難易感D. I. の推移



(暦年・四半期)

## (5) 生産・売上げ

・生産・売上げD. I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲10.4となった。  
先行きについては、マイナスとなり慎重な見方となっている。

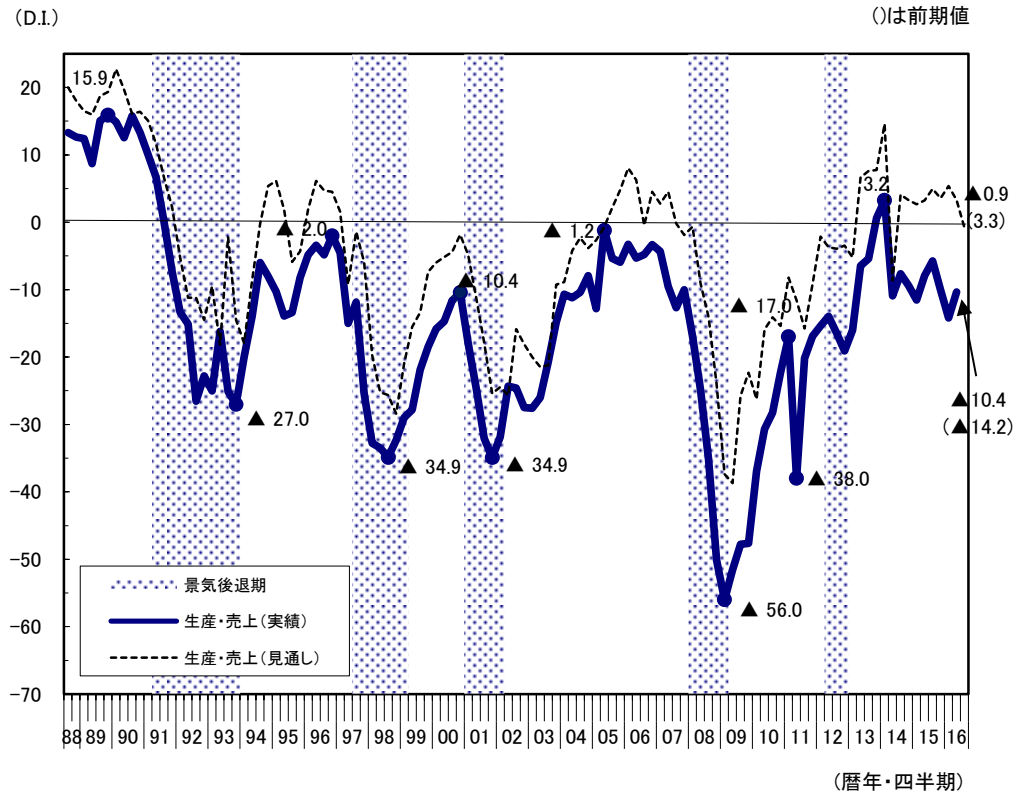
		2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6	7-9
生産・売上げD.I.	実績	▲7.9	▲5.7	▲10.1	▲14.2	▲10.4	
	見通し	3.2	5.0	3.6	5.4	3.3	▲0.9

(注) 前期比。生産・売上げD.I.は、「増加」企業の割合-「減少」企業の割合。季節調整値。

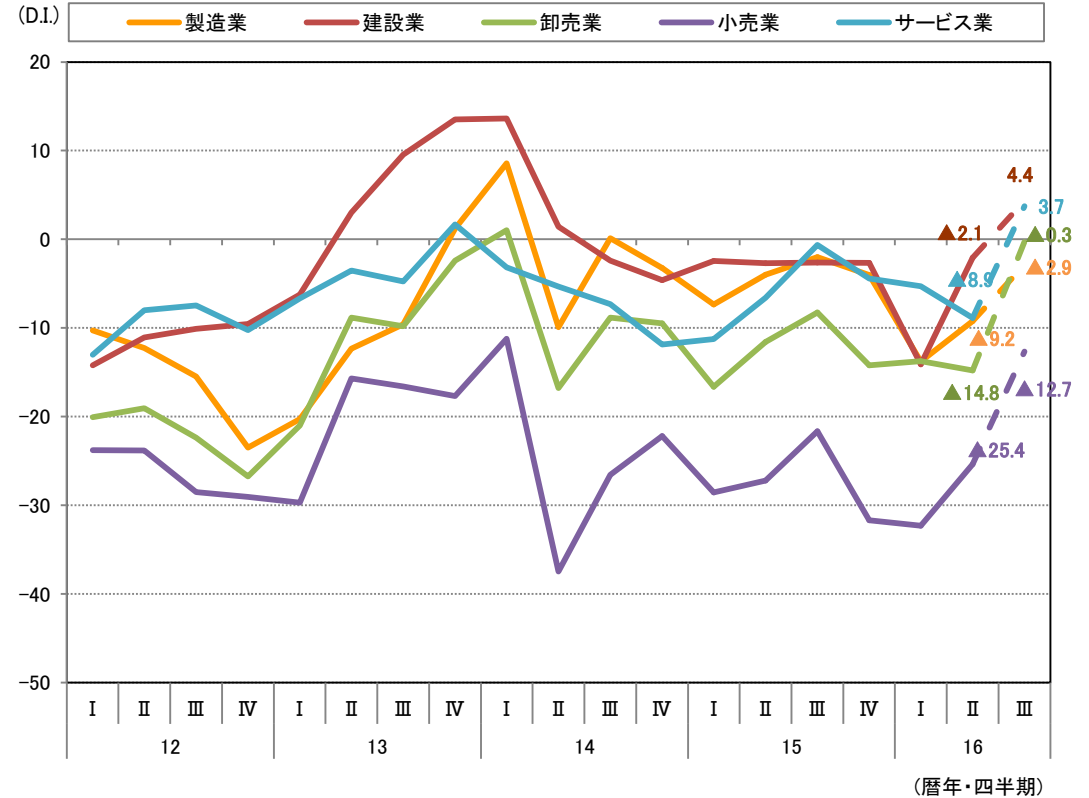
## (参考)

・生産・売上D.I.(業種別)は、製造業、建設業、小売業でマイナス幅が縮小した。

### 生産・売上げD. I. (季節調整値)の推移



### 業種別生産・売上げD. I. (季節調整値)の推移

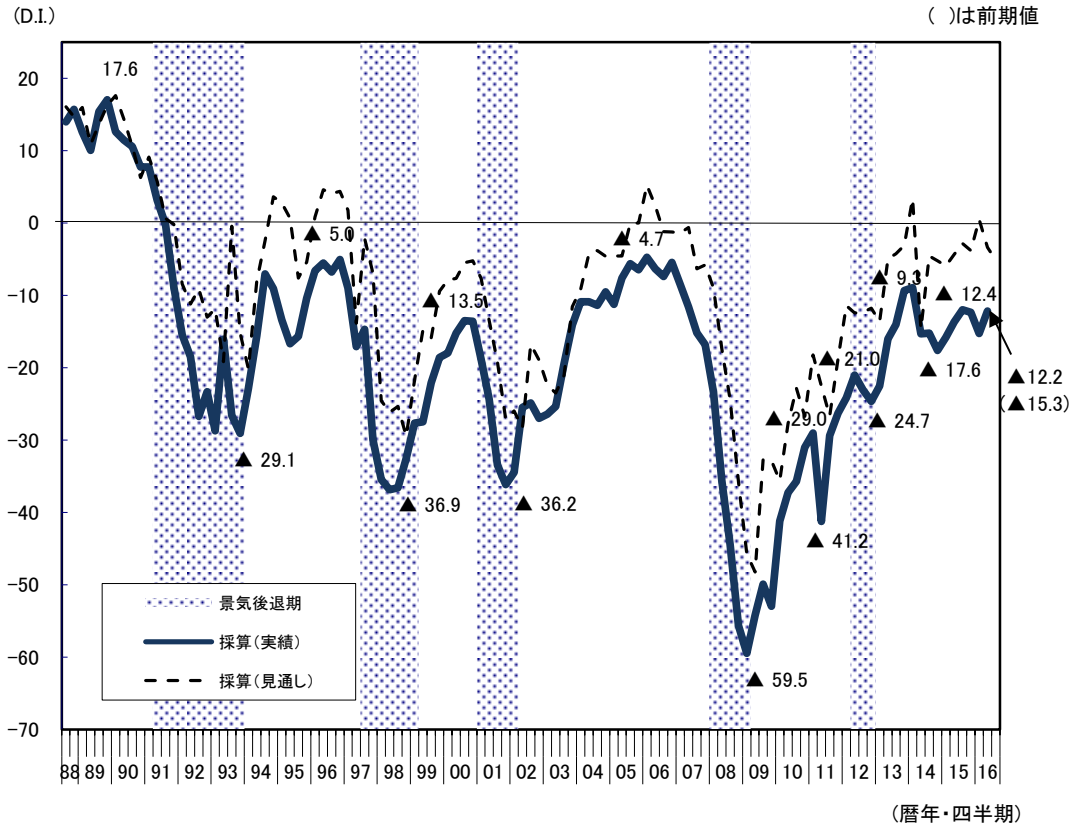


## (6) 収益

・採算D.I. は、マイナス幅がやや縮小し、▲12.2となった。

		2015/4-6	7-9	10-12	2016/1-3	4-6	7-9
採算D.I.	実績	▲13.7	▲12.0	▲12.4	▲15.3	▲12.2	
	見通し	▲4.4	▲2.9	▲3.8	0.5	▲3.4	▲5.1

(注) 前期比。採算D.I.は、「好転」企業の割合-「悪化」企業の割合。季節調整値。



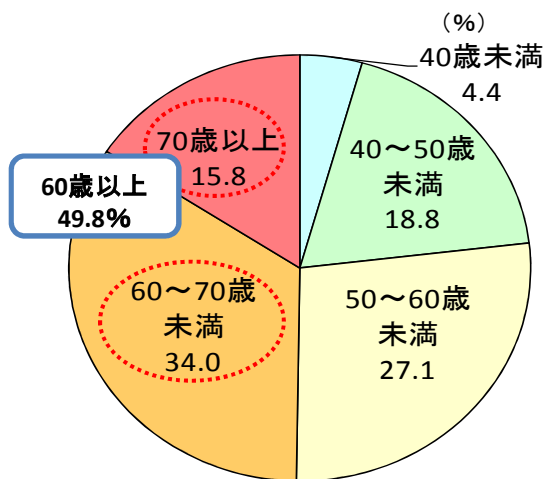


## 特別調査

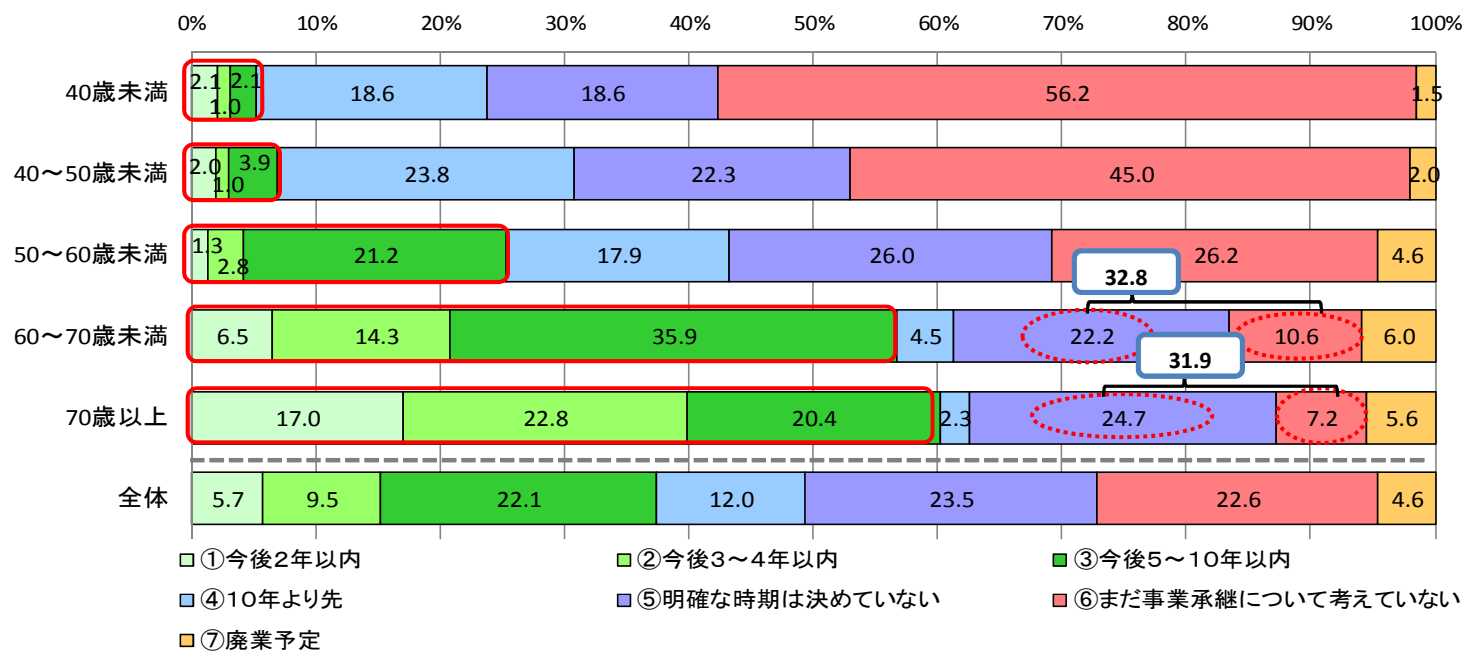
### 1. 経営者の年齢と事業承継の時期について

- ・本調査における経営者の年齢層は、60歳以上が約5割を占めている。
- ・事業承継時期については、経営者の年齢層が高くなるにつれて「今後10年以内」に事業承継をする企業が増加する傾向にあり、60歳以上では50%超となっている。一方で、60歳以上であっても「明確な時期は決めていない」との回答が20%超となっており、「まだ事業承継について考えていない」と合わせると30%超を占めている。

(1) 経営者の年齢層

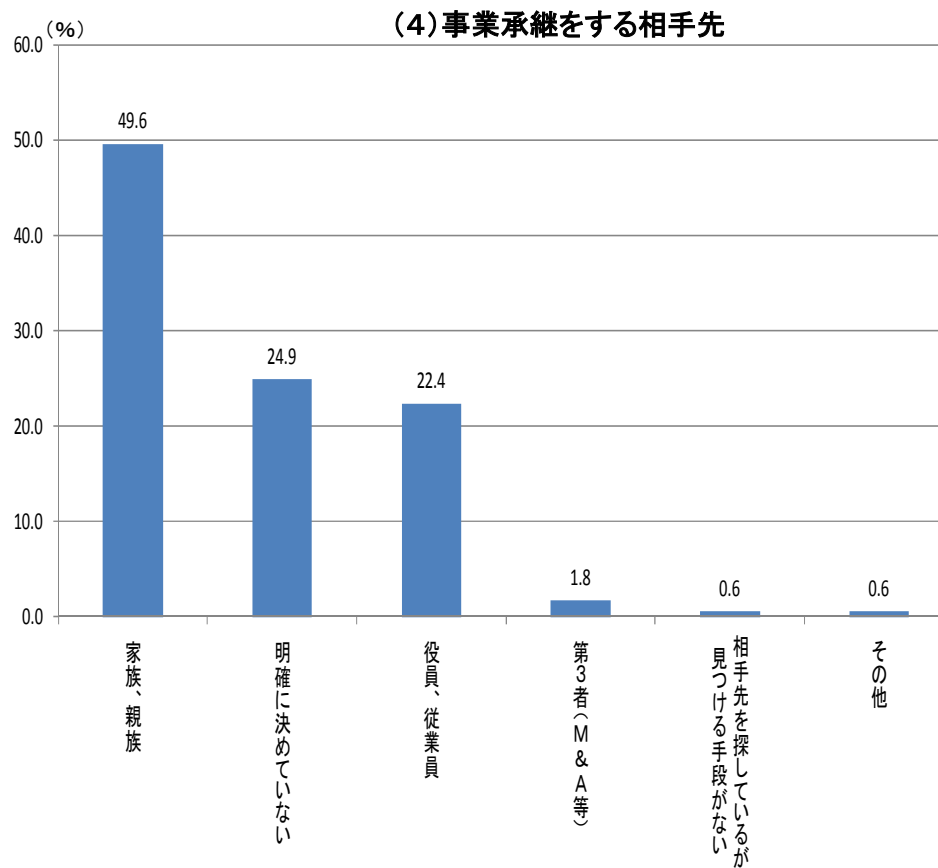
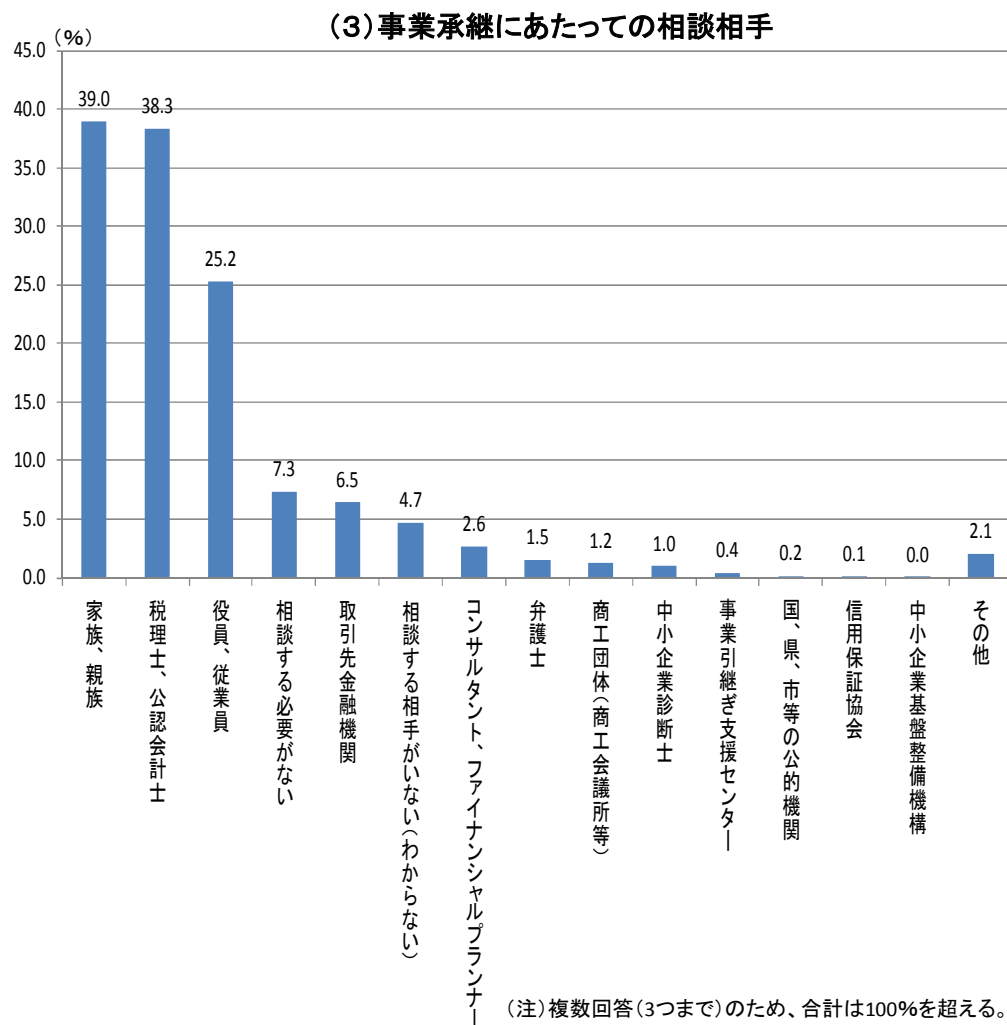


(2) 事業承継時期(年齢層別)



## 2. 事業承継にあたっての相談相手と承継相手先について（その1）

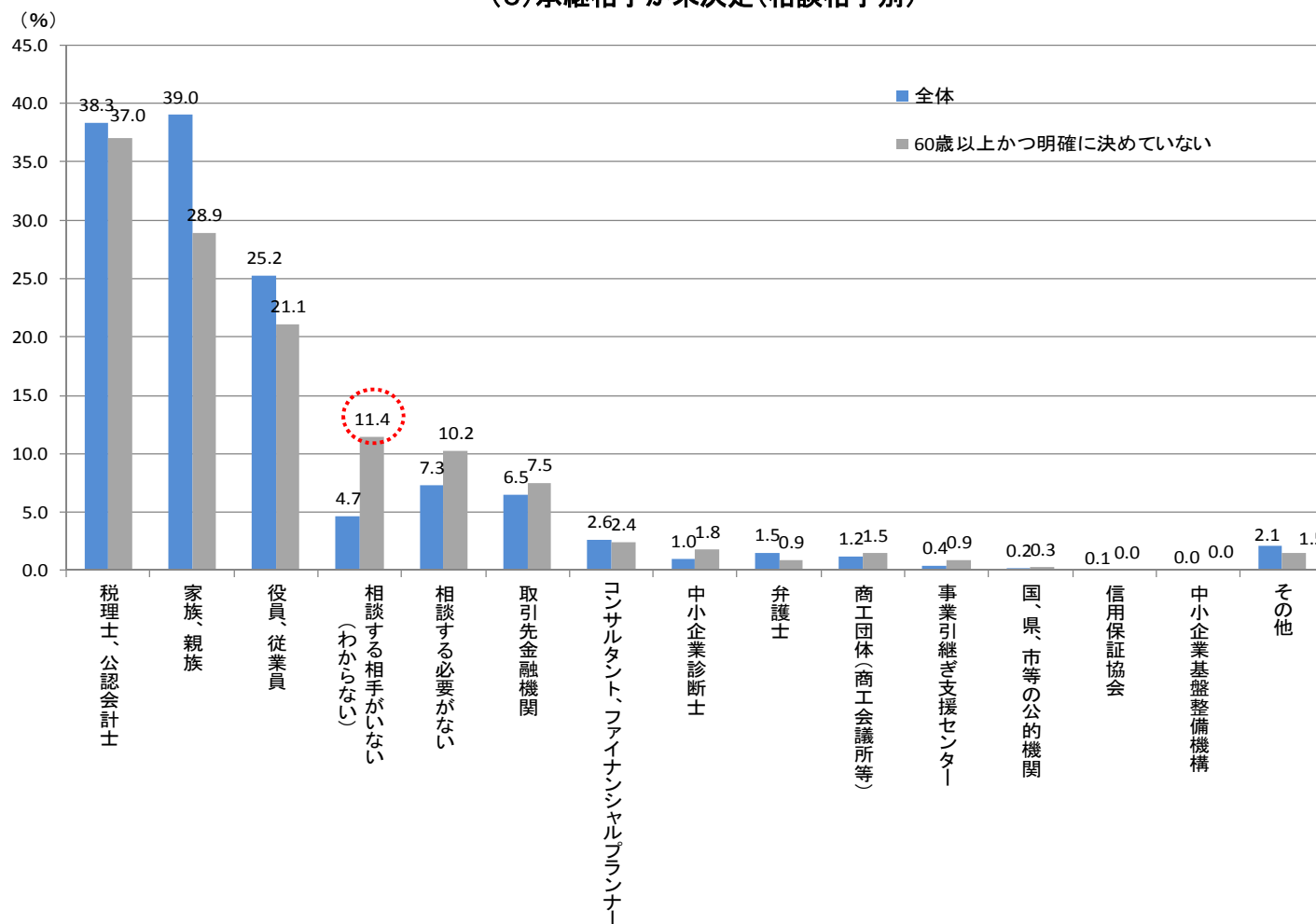
- ・事業承継にあたって相談する（相談済み、または相談する予定も含む）相手については、「家族、親族」（39.0%）が最多、次いで「税理士、公認会計士」（38.3%）、「役員、従業員」（25.2%）と続いている。
- ・事業承継をする（予定の）相手先については、「家族、親族」（49.6%）が最多、次いで「明確に決めていない」（24.9%）、「役員、従業員」（22.4%）と続いている。



## 2. 事業承継にあたっての相談相手と承継相手先について（その2）

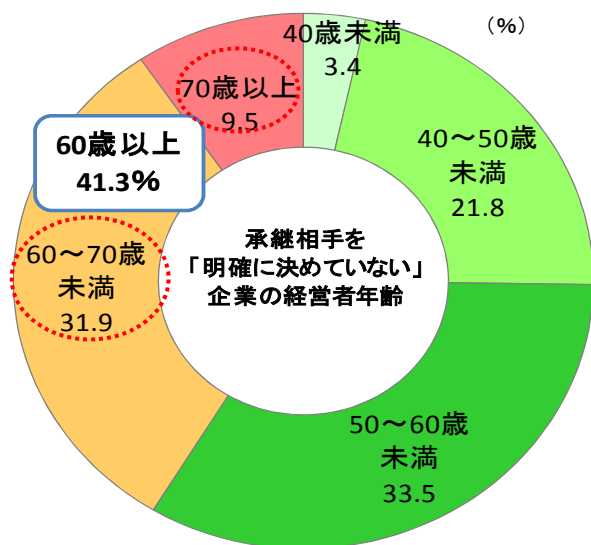
- ・事業承継相手を「明確に決めていない」と回答した企業（24.9%）の経営者の年齢層は、60歳以上が41.3%を占めている。
- ・「経営者年齢が60歳以上かつ事業承継をする相手先を明確に決めていない」と回答した企業では、「相談する相手がいない(わからない)」と回答した企業の比率が高くなっている。

(6) 承継相手が未決定(相談相手別)



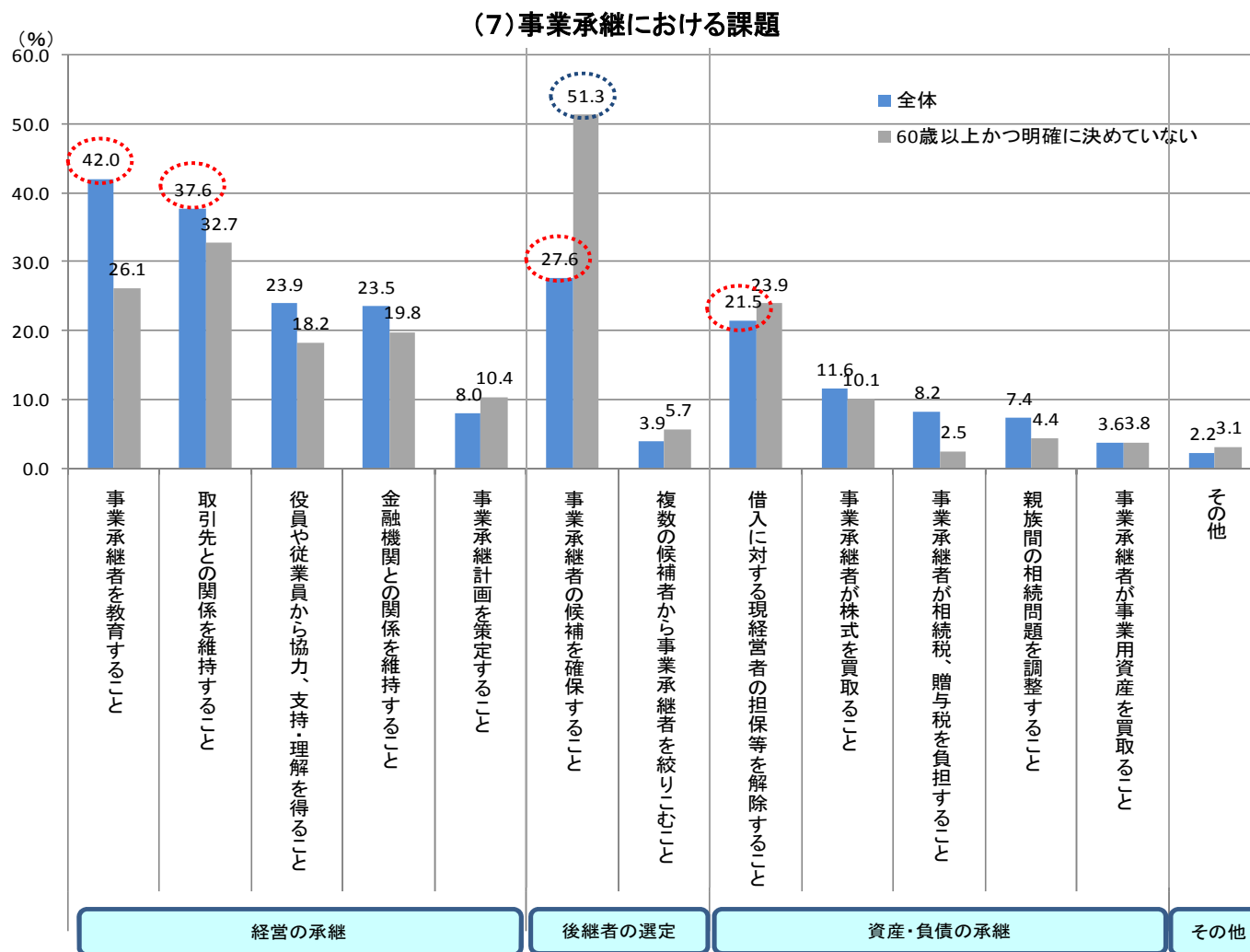
(注) 複数回答(3つまで)のため、合計は100%を超える。

(5) 承継相手が未決定(年齢層別)



### 3. 事業承継における課題

- ・事業承継における課題として、経営の承継問題では「事業承継者を教育すること」(42.0%)及び「取引先との関係を維持すること」(37.6%)、後継者の選定問題では「事業承継者の候補を確保すること」(27.6%)、資産・負債の承継問題では「借入に対する現経営者の担保等を解除すること」(21.5%)の比率が高くなっている。
- ・「経営者年齢が60歳以上かつ事業承継をする相手先を明確に決めていない」と回答した企業では、「事業承継者の候補を確保すること」(51.3%)の比率が高くなっている。

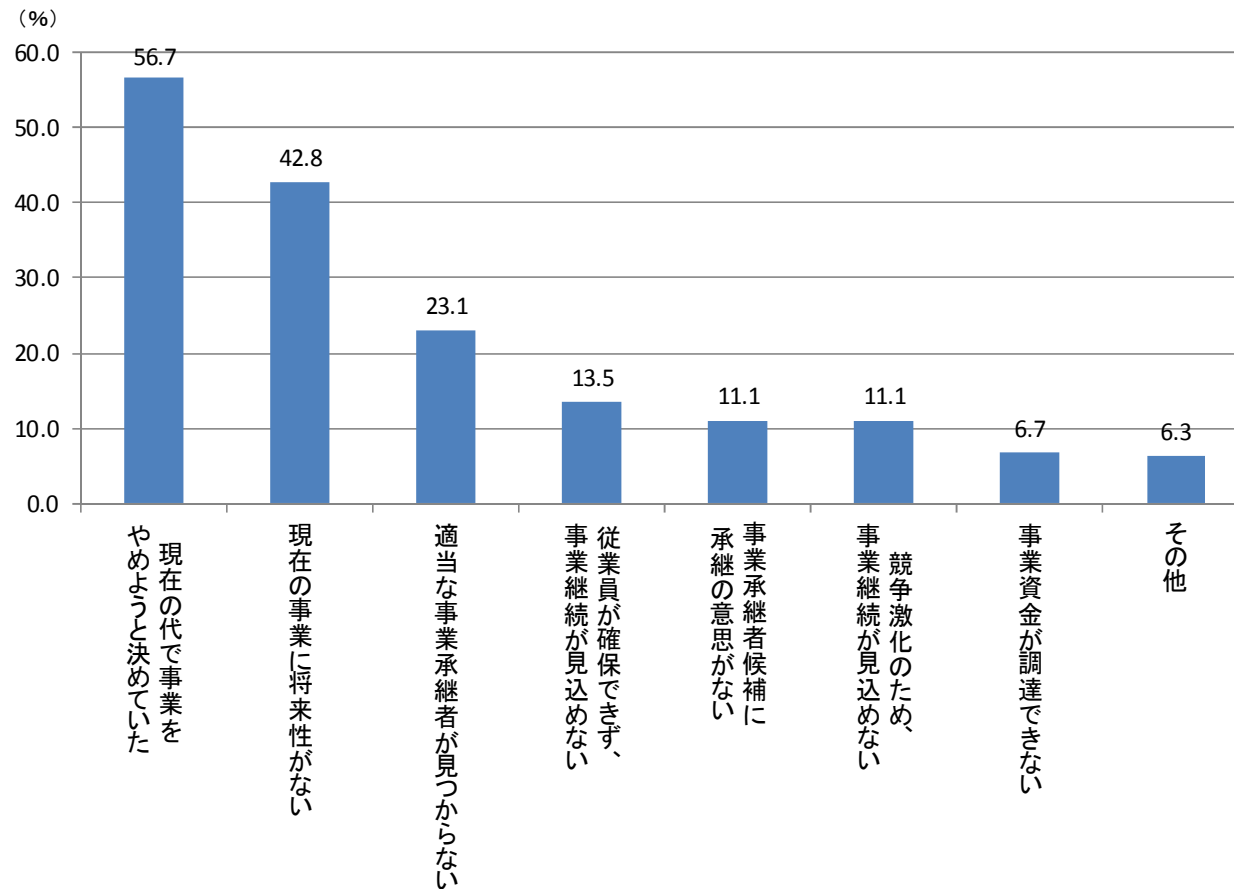


(注) 複数回答(3つまで)のため、合計は100%を超える。

## 4. 廃業する理由

・廃業(予定)の理由として、「現在の代で事業をやめようと考えていた」(56.7%)が最多、次いで「現在の事業に将来性がない」(42.8%)、「適当な事業承継者が見つからない」(23.1%)と続いている。

(8) 廃業する理由



(注) 複数回答(3つまで)のため、合計は100%を超える。